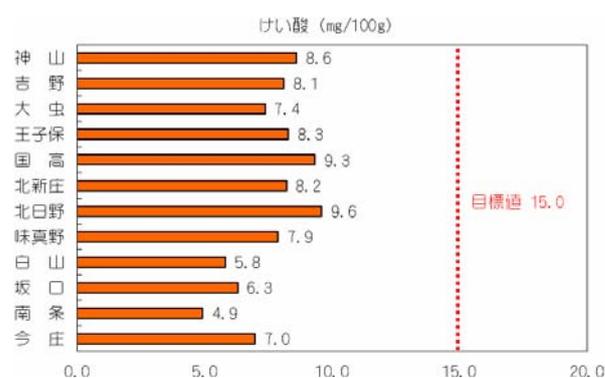
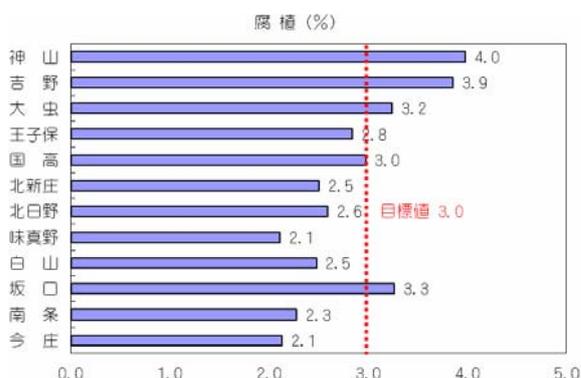


# 来年の米づくりは収穫後の土づくりから

□ 越前しきぶ姫の品質・食味向上は土づくりから □

越前しきぶ姫の安定的生産を図るため、JA越前たけふでは土壌改良資材として、ケイカル散布による土づくりを推奨しています。

イネは好けい酸植物といわれ、けい酸は、根の酸化力を増進し、病害虫や土壌還元に伴う各種阻害要因に対して抵抗性を高める効果があります。したがって、毎年継続してけい酸資材を施用することが望ましく、特に砂質土水田や秋落ち水田等でその効果が高くなります。



■ 採取点数 2, 1 2 4 地点 平成19~22年 農地・水・環境保全土壌分析調査結果より

## 管内の現状

管内の土壌診断を行ってみると、ほとんどの地点で稲が生育するのに必要なけい酸の土壌含有量が、目標値を下回っており、この傾向はほぼ全域に共通しています。上記のグラフに示した数値は、管内の土壌分析の結果を示した数値で、けい酸値の目標とされる15mg/100gに対して大幅に不足しており、その不足を補い、土づくりを図るため、JA越前たけふではケイカル500kg/10a散布を推奨しています。



# 秋起こしは稲わらのすき込みと深耕15cmの確保

## □ 稲わらのすき込みと深耕を □

稲わらの分解を促進するために、収穫が終わったら速やかに(気温が高いうちに)耕起を行いましょう。

### 稲わらのすき込みの効用

土を柔らかくすることで、土が養分を抱える力が向上し、地力の維持増進、土壌の改善・品質向上に役立ちます。

稲わらには窒素分やけい酸分が含まれますが、焼却すると稲体に利用されにくくなるので、焼かずに全量すき込みましょう。

まずは、土壌改良資材の散布と稲わらのすき込み等による土づくりを確実にすることが高食味米生産のための第一歩となります。



### 深耕による根域の拡大

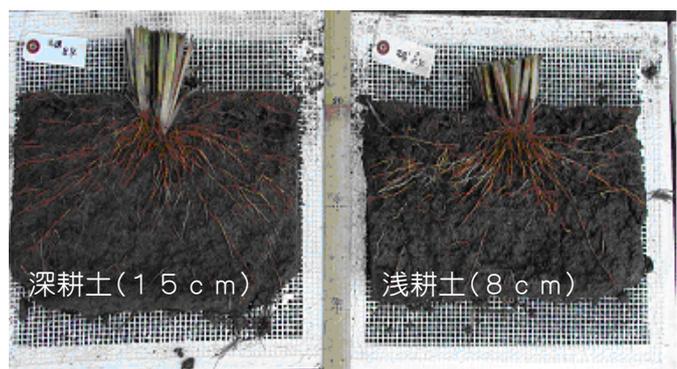
深耕で作土を増加させることにより、根張りや根の活力を向上させ、倒伏や枯れ上がりを防ぎましょう。(作土の厚さが少し増えるだけで、水稻が利用できる養分の量は大きく増加します。)

トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くし、現状よりプラス3cmの作土深15cmを確保しましょう。(すき床を壊さないよう徐々に深くすること)

近年は、耕深が浅くなったり、有機物や土づくり資材の施用が減少しています。これらの要因が重なって、水稻の根群形成が浅く、貧弱となり、大きな気象変動にも耐えられず、稲体の活力を維持できなくなっていると考えられます。

おいしい、登熟の良い米づくりを目指すためには、収穫直前まで稲体の活力を維持する必要があるため、深耕は根を十分に張らせ、健全に保つことにつながります。

## □ 耕深の違いによる根域の違い □



## ◆ 特別栽培コシヒカリ・あきさかり生産予定農家の皆様へ ◆

来年、特別栽培米(減農薬・減化学肥料栽培など)のコシヒカリやあきさかりの作付を計画されている場合、平成25年産水稻収穫後から使用した肥料・農薬をカウントします。(前作物収穫後から栽培期間中としてみなされます。)

土づくり資材の選択については、化学合成窒素を含まない、ケイカルやスーパーケイサン、ようりんを施用するようにしてください。

平成26年産米の栽培は既に始まっています